



# Uwasamon うわさもん



～益城の若もんも、がまだしょっぱい!～

町でうわさの若者を紹介。  
夢に向かって全力で進む若者を応援します。

頑張っているもの

## 吹奏楽(マーチングバンド)

名前 わたなべ かほ  
**渡邊 佳穂** さん(18)

行政区 **寺迫**

八代白百合学園高等学校 3年生  
部活動：吹奏楽部/サクソホン(テナー)  
平成25年度九州吹奏楽コンクール銀賞/平成25年度全日本高等学校吹奏楽大会 IN 横浜出場/平成27年度九州マーチングコンテスト金賞 ほか



一度やると決めたら、とことん突き詰めてやる。強靱な意志とあふれるバイタリティーを持つ渡邊佳穂さんは、マーチングバンドの花形、ドラムメジャー(※)を務める。

小学生の時には、3歳から続けるクラシックバレエに打ち込んだ。毎日レッスンに通い、コンクール前には一人で夜遅くまで練習した。そのころ、幼い時にチームパークのパレードを見て思い描いていた「ショーキャスト」になる夢が、既に実現に向けて動き始めていた。

中学では、母千賀子ちかこさんの勧めで部活を始めた。吹奏楽部で部長を務めた経験などからチームワークの大切さと楽しさを学んだ。高校では「好きな音楽と踊りをマーチングバンドで活かしたい」と、自分に一番合っているバンドを探し出し、「遠くても行ける」と通学することを決断した。

それは同時に、試練の始まりでもあった。通学は自転車と電車を乗り継ぎ片道2時間。弁当も自分で毎日こしらえた。部活では、ドラムメジャーの重圧の中、重いバトンを体にぶつけ青あざだらけになりながらも、「これまで培った自分の表現力を活かして、バンド全体をさらに際立たせたい」との強い想いを胸に、猛練習を積んだ。「バトンを使いこなすのに半年かかりました」。笑顔で話す佳穂さんの言葉の裏には、想像できないほどの努力が隠れている。続けられたのは「家族をはじめ先生や仲間のおかげ」と感謝の想いも強い。

「吹奏楽の魅力は、みんなの気持ちが一つになった時の感動と達成感です。これからも、お客さんに感動を与え続け、いつも笑顔でいたい」。常に前を見て突き進む続ける佳穂さんは、希望するチームパークの就職内定をつかんだ。

持ち前のド根性で、夢実現を手の届くところまで引き寄せた佳穂さん。憧れのショーキャストとして、美しく舞う姿を見せる日は近い。

※マーチングバンドの指揮者の呼称。行進では先頭を歩き、バトンを動かしてリズムを示す。隊列の動きを見て整列や方向転換を指示したり、バトンを空中に飛ばしたりするなどの技を披露することもある。

問い合わせ先 役場秘書広報課広報係 ☎ 286-3111 / ☎ 203 ☎ 286-4523 ✉ kouhou@town.mashiki.lg.jp